

福祉の WA プロジェクト

—長工生による「福祉の和・輪・話 創り」の試み—

山形県立長井工業高等学校 福祉生産システム科 河村 一郎

1. はじめに

本校の福祉生産システム科は、平成 25 年度に福祉情報科の科名を変更してできた新しい学科である。「福祉の視点を持ったものづくり」をコンセプトに、機械・電気・福祉の各分野を広く学んでいる。

2. 本プロジェクトに至った経緯

(1) きっかけその 1 ～平成 26 年度 LED ホタル製作～

米沢市の小野川温泉関係者から、温泉街のほたる祭りの時期に合わせて LED ホタルを製作できないかという依頼があり、課題研究の時間に取り組んだことがきっかけとなった。

完成した LED ホタル (PIC マイコン制御) を写真 1 に、寄贈時の様子を写真 2 に示す。



写真 1 完成した LED ホタル
写真 2 LED ホタルの寄贈

小野川温泉ほたる祭り実行委員会の代表者に集まっていただき、セレモニーの後に、製作したホタル 6 セットを虫かごに入れ手渡した。実行委員会会長からは出来栄についてお褒めの

言葉をいただき、生徒達も満足した様子だった。
(2) きっかけその 2 ～平成 26 年度創造性開発育成事業への参加～

LED ホタルを製作した生徒達からは、ホタルが完成する以前から「次も何か喜ばれるものを作りたい」という意見が出ていた。この気持ちを大事にしながら、学科の特性を生かしたもののづくりで、かつ地域に役立つ事が出来ないかを検討した結果、本校の後援会企業から技術支援をいただき「超高齢社会に安心・活力を与えるシステムの構築 ～情報端末を活用した「地域の和・輪・話 創り」の試み～」を目指すことにした。図 1 にシステムの概略を示す。

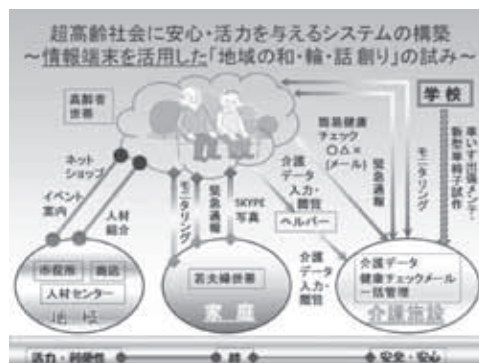


図 1 平成 26 年度に目指したシステム案

本システムは以下の 2 点を目標とした。

- ① 情報端末 (スマートフォン・タブレット) を用いて、高齢者と地域・福祉施設・家族の間を繋ぐ WA (輪・話・和) を創り、お互いが楽しむことができるシステムの提供

提案

④ 福祉施設での清掃ボランティア活動

(3) やまがた未来賞

周囲の勧めもあり、日教弘奨励金事業の「やまがた未来賞」に応募したところ、幸運にも本プロジェクトを採択していただいた。受賞の理由としては、「希薄な人間関係や高齢化社会と言われるなかで、ものを作るだけでなく、異世代間交流を通し、寄り添い合い支え合う（共生・協働・自立）ことを大切にしたい取組が、未来賞の主旨に合致する」との評価をいただいたもので、今後に向けた大きな励みとなった。写真4に授賞式の様子を示す。



写真4 成果発表会での記念写真

4. 28年度の取組

以下に28年度の取組の概要を示す。

(1) LED ホタルの製作



写真5 山形鉄道(株)への寄贈

(2) 改良型多方向移動車椅子の製作



写真6 校内での製作の様子

(3) 福祉施設でのロボットの利用の検討

県内のNPO法人からの誘いを受け、Pepperロボットの福祉施設での利用方法について、共同で検討・提案を行った。

① 介護ロボット開発の経緯

福祉分野でのロボット活用に興味を持ってもらうことを目的として、山形市のNPO法人エール・フォー・ユー様より、Pepperを使った活動についてお誘いを受けた。参加生徒は、Pepperを動かすための基礎技術を学ぶために県の補助金を活用しながら、山形メイカーズネットワークと、アプリ開発を手掛ける日本アバカス株式会社様や株式会社アクティブクリエイト様からプログラミング研修を受ける機会をいただいた。研修の様子を写真7に示す。



写真7 プログラミング研修

② 福祉施設と山形県産業科学館での成果発表
研修後に地元の福祉施設と山形県産業科学館において活動成果発表会を行った。

福祉施設では、プログラミング研修の成果と



写真 8 Pepper が kinect を利用したレクリエーションゲームについて説明する様子



写真 9 施設入居者とのふれあいの様子



写真 10 産業科学館成果発表会における参加者とのふれあいの様子



写真 11 山形県産業科学館での NPO 法人や企業の皆様方との記念写真

して、Pepper の身振り手振りを交えた自己紹介後に、入居者と一緒に体操も行い、最後はこの日のために準備したゲームを共に楽しむことができた。多くの入居者に集まっていただき、たくさんの笑顔に囲まれ、入居者も生徒も共に満足できる発表会だったと感じている。

山形県産業科学館においても、NPO 法人と共同で「介護のお仕事プロモーション事業」に参加し好評を得ることができた。

福祉施設での成果発表の様子を写真 8, 9 に、山形県産業科学館での様子を写真 10, 11 に示す。

5. おわりに

平成 25 年度の総務省統計局データによると、日本は 4 人に 1 人が 65 歳以上の超高齢社会になっている。現在も少子高齢化が進行する中で、これからは福祉の視点（共生・協働）を持った取組が必要になると考えられる。本プロジェクトにより、すぐに生徒の変化が見える形で現れるわけではないが、福祉に興味を持つ生徒が少しずつ増えてくれれば、意味のある取組に繋がる（きっかけ創りになる）と信じている。

28 年度は、NPO 法人からロボットの福祉分野への利用方法について、共同で検討・提案するために声を掛けていただいた。ありがたいと思うとともに、学校の普段の活動が私たちの想像以上にどこかで見られているという自覚を持たなければならないことも改めて感じた。そして NPO 法人とのかかわりを通して、福祉の WA プロジェクトが目指す方向に大きく前進することができたと感じている。この度の貴重な機会を大切にして、協力してくれる施設・団体への感謝の気持ちも忘れず、福祉の WA プロジェクトが今後さらに充実したものになるように努力していきたい。